



Nursing Practices for Creating Communication Opportunities for Mechanically Ventilated Patients in Intensive Care Wards: A Video-Based Observational Study

山口, 亜希子

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2022-09-25

(Date of Publication)

2023-09-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第8452号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100477878>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式3)

論文内容の要旨

専攻領域 看護学領域

専攻分野 看護実践学分野

氏名 山口亜希子

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を()を付して併記すること。)

Nursing Practices for Creating Communication Opportunities for Mechanically Ventilated Patients in Intensive Care Wards : A Video-Based Observational Study

(集中治療領域人工呼吸器装着患者のコミュニケーション機会をつくる看護実践の検討：ビデオ録画による記述的観察研究)

論文内容の要旨 (1,000字～2,000字でまとめること。)

集中治療領域で治療を受ける患者は疾患や治療に伴う身体的問題や、侵襲的な治療を受けることで引き起こされる不安や恐怖などの心理社会的問題を抱えており、それらを看護師に伝える機会を必要としている。しかし患者は、気管挿管や気管切開に伴い発声ができないため、それらの問題を看護師に伝えるコミュニケーションの機会を得ることが難しいという独特の問題に直面している。

そこで本研究は、集中治療領域人工呼吸器装着患者のコミュニケーション機会を保証するための看護実践について検討するために、人工呼吸器装着患者-看護師間コミュニケーションの頻度と時間、人工呼吸器装着患者のコミュニケーション開始の意思を示す行動の種類と頻度を明らかにする事を目的に研究を実施した。なお本研究におけるコミュニケーションの機会とは、人が自分の考えや思いや感情を、他者に言語的・非言語的に伝える対面による双方向のやり取りとした。

本研究はビデオ録画による記述的観察研究デザインを用いた。研究対象者は、Intensive Care Unit、Coronary Care Unit、High Care Unitで治療を受けた意識下人工呼吸器装着患者7名とその患者の日勤担当看護師7名であった。データ収集は、兵庫県にある2つの病院の3つの集中治療病棟で行った。データ収集期間は、2019年7月から2020年6月までの間であった。研究対象患者が臥床するベッドの頭元と足元にGoPro HERO6 Black edition®(GoPro社)を設置し、患者の人工呼吸器装着期間中のある1日の午前8時から午後4時までの間、患者を定点撮影しデータ収集を行なった。撮影前に、患者情

報（年齢、診断、治療、人工呼吸器装着日数、気道確保方法、鎮静剤使用の有無）と看護師情報（年齢、看護師経験年数、クリティカルケア看護師経験年数）を得た。また、患者と看護師のやりとりを観察し研究者が意識レベルをGlasgow Coma Scaleで、鎮静レベルをRichmond Agitation Sedation Scaleで評価した。分析は、得られた録画データを分類し、分類したデータを解析して患者-看護師間コミュニケーションの頻度と時間を算出した。また、患者が開始したコミュニケーション場面において、患者がコミュニケーション開始の意思を示すために行った患者行動の種類と頻度を分析した。録画記録の注釈にはELAN ver.5.9を使用した。

総録画時間は 668.0 分であった。668.0 分のうち、看護師が Conversation Area of the Patient ; CAP（患者が臥床しているベッドの中央から左右に約 150cm、ヘッドボードから上方約 50cm の空間）に滞在していた時間は 279.6 分であった。279.6 分のうち、患者-看護師間双方向コミュニケーションが観察された時間は 78.0 分であった。78.0 分のうち、看護師が開始した双方向コミュニケーション時間は 47.2 分（174 場面）、患者が開始した双方向コミュニケーション時間は 24.2 分（36 場面）であった。

患者が開始した双方向コミュニケーション場面 36 場面には、コミュニケーションを開始したい意思を示した患者の行動（Patient-Intentional-Action）が 37 行動含まれた（1名の患者が同時に 2つの Patient-Intentional-Action を行ったため、36 場面で 37 の Patient-Intentional-Action が観察された）。上肢を用いた Patient-Intentional-Action は 20 場面で観察され、上肢は Patient-Intentional-Action に最も多く用いられる身体部位である事が分かった。しかし同時に、頭・顔、下肢、体幹を使用した Patient-Intentional-Action もそれぞれ 10 場面、4 場面、3 場面で観察され、患者は全身を使いコミュニケーションを開始したい意思を示す事が分かった。ジェスチャーは最も多く使用された Patient-Intentional-Action の種類であった（14 場面）。その他の Patient-Intentional-Action の種類には、唇を動かす（5 場面）、顔をしかめる（3 場面）、咳をする（2 場面）などがあつた。

本研究より、患者のコミュニケーションの機会は、看護師が率先してコミュニケーションを開始した時、あるいは看護師が患者の Patient-Intentional-Action に気づき応答した時に生じることが分かった。このことから、看護師は患者が全身を使って送る合図、Patient-Intentional-Action を見逃さないように可能な限り CAP に留ること、また CAP では Patient-Intentional-Action が見える位置に立ち患者の行動に応答することが求められる。そして看護師は、患者の Patient-Intentional-Action を待つのでなく率先してコミュニケーションを開始しコミュニケーションの機会を作ることが求められる。

指導教員氏名：石井豊恵

論文審査の結果の要旨

氏名	山口 亜希子		
論文題目	Nursing Practices for Creating Communication Opportunities for Mechanically Ventilated Patients in Intensive Care Wards : A Video-Based Observational Study. (集中治療領域人工呼吸器装着患者のコミュニケーション機会をつくる看護実践の検討：ビデオ録画による記述的観察研究)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	石井豊恵
	副査	教授	宮脇郁子
	副査		
	副査		印
	副査		印
要 旨			
<p>本研究は集中治療領域人工呼吸器装着患者のコミュニケーション機会に関する問題に焦点を当てた研究である。人工呼吸器装着患者は発声不可能で、かつ、身体的な病状が重篤な状況にある。患者の安全と安楽確保のため、患者とのコミュニケーションは適切な看護を提供する上で必要不可欠であり、コミュニケーション機会の実態を明らかにする事、それらを踏まえたより効果的な看護実践の検討が重要である。本研究では患者-看護師間コミュニケーションの頻度や時間、コミュニケーション開始意思を示す患者行動の種類や頻度、および内容を明らかにした。集中治療領域意識下人工呼吸器装着患者7名と日勤担当看護師7名を対象に治療療養中のビデオ撮影を実施し、得られた録画データを量的・質的に分析した。総録画時間のうちの半分以上、看護師は患者との会話域にはいなかった。一方で、患者との会話域滞在中には、看護師はコミュニケーション機会を患者に比べ数多く作っていた。また患者はコミュニケーション意思を示す行動として、上肢を最も多く使い、更には頭部・顔面、下肢、体幹を用いた行動を取っていた。以上のように、看護師が率先してコミュニケーションを開始した際、あるいは看護師が患者のコミュニケーション開始意思を示す行動に気づき応答した際に、患者はコミュニケーション機会を得ていることが明らかとなった。加えて、身体的症状に関連する内容については比較的短時間で内容理解がなされていたが、患者の日常生活に関連する内容については時間がかかっている等の特徴が示された。</p> <p>本研究により、集中治療領域人工呼吸器装着患者とのコミュニケーション機会の実際が明らかとなった。これらの成果は今後に向けてより良く看護実践の検討に寄与するものである。よって、学位申請者の山口亜希子は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。</p>			
<p>掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。 Akiko Yamaguchi, Atsue Ishii, Haruna Fukushige, Yoshiaki Inoue, Izumi Akada, Rie Mitani, Akiko Ito, Mio Hosona, Sayaka Suga, Akiko Yamada, Yoko Arima, "Opportunities for Interactive Communication in Mechanically Ventilated Critically Ill Patients: A Video-Based Observational Study", Nursing Research and Practice, vol. 2022, Article ID 1885938, 11 pages, 2022. https://doi.org/10.1155/2022/1885938</p>			